

現代の母娘関係についての一考察
—母娘研究論文のメタ分析的研究を通して—

立命館大学応用人間科学研究科
対人援助学領域
家族機能・社会行動クラスター

要約

現代の母娘関係の特徴として「仲の良い母と娘」というものが一般的に広く認知されているが、臨床現場からは、密着した母娘関係は双方の心理的問題を引き起こすという指摘が多くなされている。世間で言われている母娘のイメージと臨床場面での母娘は全く異なる側面を見せているようにも思われるが、果たして現代の母娘関係の実態とはどのようなものなのだろうか。それを知るためには、母娘関係について何が語られ、何を問題として研究されているのかを理解する必要がある。よって本研究では、母娘関係を扱った研究論文をメタ分析風に対象化して概要的な研究を行なうことを通して、そこから見えてくる現代の母と娘の姿について考察することを目的とする。

本研究における対象論文は、データベースによる検索から母娘関係に関する 78 の研究論文を抽出し、それらを分析対象とした。まずこれらの論文を社会学系の論文と臨床心理学系の論文とに分け、それぞれにおいて論文のテーマを分類した。その上で、第一に社会学系の論文における研究テーマの変遷と最近の母娘研究の傾向について、第二に社会学系の論文と臨床事例に表われる母娘関係の特徴についてそれぞれ分析を行なった。これらを踏まえ、最後に母娘研究の流れとその背景、今後の母娘研究の課題について考察した。

従来の伝統的な研究テーマとしては、ライフスタイル選択やジェンダー、娘の発達など母親の娘への影響や、娘の母親認知に関する研究が挙げられるが、これらを概観すると、この 20 年ほどの間で大きな内容の変化は見られず、ほぼ確立された領域であることがうかがえる。一方最近の母娘研究のトレンドとも言える、母と娘の関係性に焦点を当てた研究からは、心理的距離が非常に近い母娘像が見えてくる。このような研究が過去にはほとんど行なわれず、近年になって急増していることから、こうした母娘像が現代に特徴的なものであり、臨床的知見を含めて多くの論議の対象となっていることがうかがえる。ただし、伝統的な研究テーマと比べてまだ確立されていない分野であることも事実であり、母娘間の介護問題や母娘関係と父親との関連などを含めて、母と娘の関係性については検討すべき点が多く残されていると言えるであろう。

社会学系の論文においては、母と娘の関係が密接であるという前提で研究されている。一方臨床事例においては、思春期における不登校や摂食障害の背景に、母子密着の様相がみられるものがある。この場合の母と娘の密着は、親密というより依存的・支配的な側面が強調されているようである。しかし、社会学系の論文において母娘関係の前提とされている“母と娘の密接した関係”が、臨床事例に見られる母子密着と同質のものであるかどうかは明らかではない。これはすなわち、臨床的問題が顕在化していない非臨床群の母娘においても、臨床的に指摘されているような傾向が内在化しているのかという問題であると言える。今のところこの問題に関する研究は少ないが、今後非臨床群を対象とした研究

を重ねていく中で、現代の母娘関係の特徴であるとされる密接した母と娘の関係が、果たして本当に危惧されるべき関係であるのか明らかにされていくであろう。

以上の分析を踏まえて総合的に考察すると、近年の母娘研究の流れとして、母と娘の関係性を扱った研究の増加という特徴があり、その背景には、現代社会の変化とそれに伴う家族形態の変化を受けて母娘関係も変化したことが考えられる。特に、現代社会の大きな特徴である少子高齢化の流れは母娘関係にも多大な影響を及ぼしていると思われる。少子化社会では、親は子に対して精神的な価値を期待し、特に息子よりも密度の濃い交流ができ精神的な面で支えてくれる娘を望むようになってきている。こうした背景の中で、母と娘が相互に心理的に結びつき、密接な母娘関係が生まれたと考えられる。また平均寿命の伸長は成人同士の親子関係の延長をもたらし、それによって中期親子関係での親の側の身体的・経済的な余裕が生まれている。特に中年期の女性のライフスタイルは近年大きく変化しており、こうした状況の中で、母親が健在でありなおかつ経済的にも余裕がある状態が生じ、母親から娘への援助という形を通して、娘が独立した後も母と娘の密接した関係が継続されていくのではないかと考えられる。

今後の母娘研究に残された第一の課題として、情緒的依存と絆という親密さの二つの側面を考慮に入れながら、臨床的問題が顕在化していない非臨床群においても臨床的に指摘されているような傾向が内在化しているのかを明らかにしていく必要性が挙げられる。第二の課題は、母娘関係に影響を及ぼす要因として夫との関係についても検討していくことである。母と娘という一元的な関係性だけでなく、夫や周囲の人との関係を踏まえた多元的な関係性の中で母娘関係を捉えていかなくてはならないだろう。方法論的な課題としては、質問紙調査による同時相関的研究のみならず、継時的変化を捉える縦断的研究が望まれる。またほとんどの研究において対象者が限定されているという問題があり、今後はより幅広い層のサンプルからデータを収集し検討を重ねていく必要があると思われる。